

大植英次プロデュース

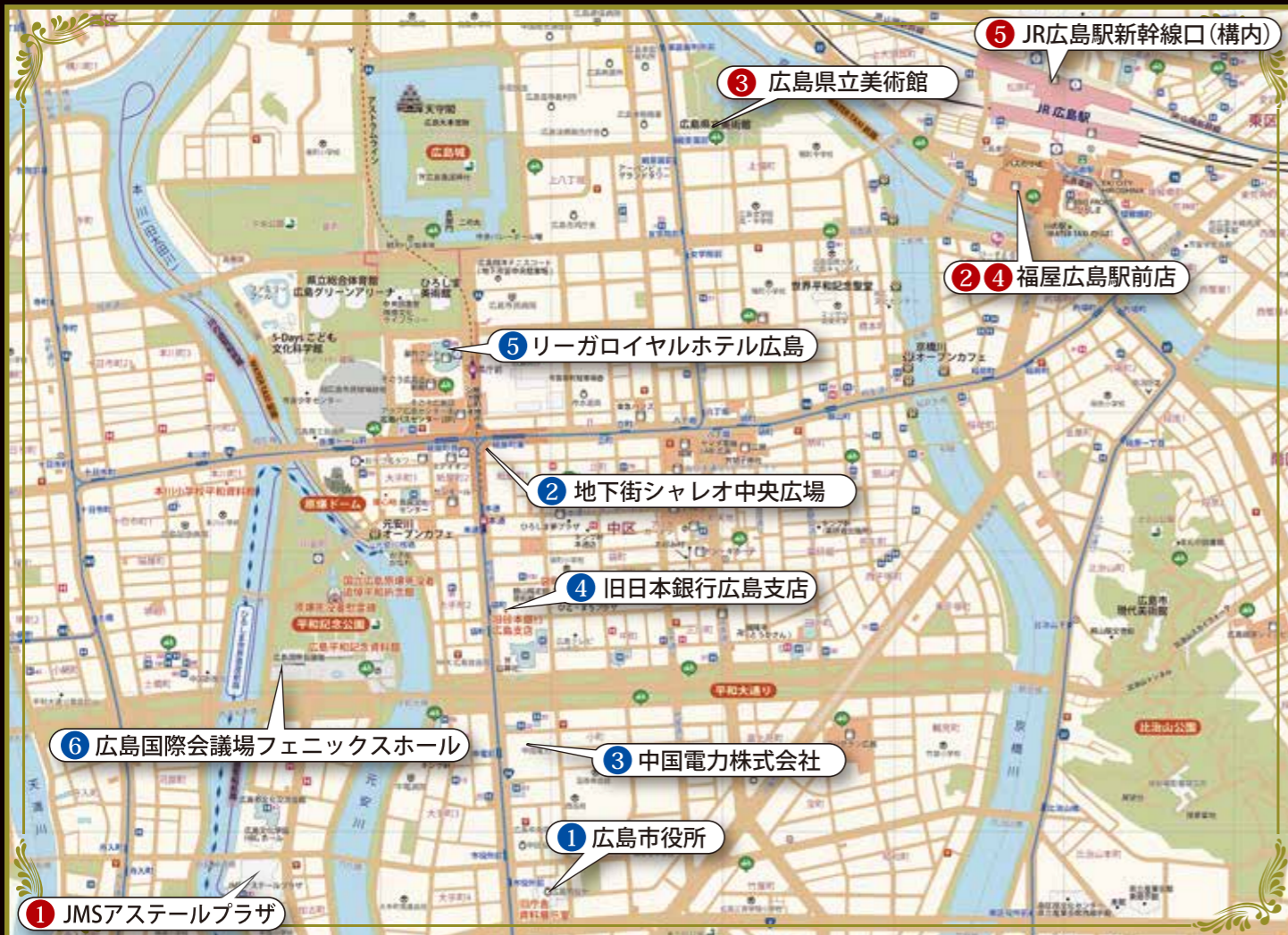
威風堂々 in Hiroshima

2018.11.24 (土)・25 (日)

広島を音楽でいっぱい...

入場無料

(ただし、広島国際会議場 フェニックスホールは有料)



©ZENRIN CO., LTD.2018 (Z18EP第463号)

お問合せ・申込先

威風堂々クラシック in Hiroshima 実行委員会事務局 ☎ 082-244-0750
〒730-0812 広島市中区加古町 4-17 ホームページアドレス <https://12dodo.com>



お客さまへのお願い

- 各会場ともバス停や電停から10分程度ですので、公共交通機関をご利用くださいますようお願い申し上げます。
- 開場時間は開演30分前の予定です。また、お客さまの安全確保のため、入場を制限する場合がございます。
- 椅子の数には限りがあるため、立見をお願いする場合がございます。
- 会場は基本的に飲食禁止ですので、予めご了承ください。
- 赤ちゃん連れのお客さまもお気軽にご鑑賞ください。途中くづられることがあっても、どうか周囲のみなさまも温かい目で見守ってくださいますようお願い申し上げます。
- 会場の様子が、新聞・テレビなどに掲載・放送されることがありますので、あらかじめご了承ください。

《協賛企業》

マツダ、中国電力、広島銀行、中国新聞社、大野石油店、中電工、広島ガス、広島市信用組合、広島信用金庫
広島電鉄、ヒロタニ、福屋、もみじ銀行、リーガロイヤルホテル広島、中国放送、平尾クリニック、広島トヨペット



大植英次

主催：威風堂々クラシック in Hiroshima実行委員会、広島市、(公財)広島市文化財団
協力：(公社)広島交響楽協会、エリザベト音楽大学、大植英次後援会
後援：広島市教育委員会、(公財)広島観光コンベンションビューロー、広島商工会議所、中国新聞社、NHK広島放送局
中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島



Message

広島みなさまへ

音楽業界の中で広島はこれまであまり重要視されてきませんでした。この動向は今変わろうとしています。

この変化は、「威風堂々クラシック in Hiroshima」が一役買っていると言っても過言ではないでしょう。

こうした皆さんの努力のおかげで、「日本一素晴らしい音楽体験ができる町ひろしま」へと飛躍を遂げようとしているのです。

私はそんな広島を愛していますし、広島市民であることを誇りに思っています。

広島市民の皆様を中心として、大勢の方がこの2日間のイベントを心の底から楽しんでくれること、心から祈っています。

最後になりましたが、この素晴らしいクラシック音楽の祭典を開催するにあたり、支えてくださっている全ての皆様に心より感謝申し上げます。

それでは、各会場でお会いしましょう！

「威風堂々クラシック in Hiroshima」
プロデューサー

大植英次

大植英次プロフィール



1956年10月3日広島市生まれ。大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。タンゲルウッド音楽祭でレナード・バーンスタインと出会い、以後、世界各地の公演に同行、助手を務めた。これまでにミネソタ管弦楽団音楽監督、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督を務め2000年よりハノーファー音楽大学終身正教授。2005年日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭で指揮し、世界の注目を集めた。2006年大阪芸術賞特別賞、斉藤秀雄メモリアル基金賞受賞。2007年大阪市市民表彰受賞。2009年ニーダーザクセン州功労勲章・一等功労十字章受章、広島市民賞、中国文化賞受賞

個人協賛のご案内

威風堂々クラシック in Hiroshima実行委員会では、このイベントの運営資金に充てるため、みなさまにご協賛(ご寄付)のお願いをしております。イベントの趣旨にご協賛いただける方は、お手数ですが、郵便局払込用紙に、住所、氏名、電話番号をご記入の上、11月2日(金)までに下記の通りお振込みください。

- 1 協賛金額 1口2,000円(何口でも構いません)
 - 2 振込み先 ゆうちょ銀行 01310-8-102593 威風堂々クラシック in Hiroshima 実行委員会
 - 3 問合せ先 威風堂々クラシック in Hiroshima 実行委員会事務局 ☎ 082-244-0750
- ※ 1口につき、11月25日(日) 18:00開演の広島国際会議場フェニックスホールでの入場券1枚進呈(ただし、最大5枚まで。)

Program

2018/11/24 (土)

①	10:30 11:10	JMSアステールプラザ 多目的スタジオ	指揮:大植英次 演奏:広島心音オーケストラ* エルガー/威風堂々 バーンスタイン/キャンディード序曲、ウエストサイドストーリー シンフォニックダンス
②	11:40 12:40	福屋広島駅前店 6階マルチの広場	ピアノ:尾崎有飛、甲斐史郎、大植英次 モーツァルト・ブゾーニ/魔笛 序曲 ストラヴィンスキー/ロシア風スケルツォ モーツァルト/2台のピアノのためのソナタKV448 第1楽章 ラフマニノフ/組曲第2番
③	13:15 14:15	広島県立美術館 1階メインロビー	ヴァイオリン:井前慶子 ヴィオラ:朴梨恵 チェロ:吉田正子 ピアノ:保屋野美和、大植英次 ブラームス/ピアノ四重奏曲第1番 モンティ/チャルダッシュ
④	14:45 15:40	福屋広島駅前店 6階 マルチの広場	指揮:大植英次 フルート:齊田美緒 クラリネット:山田息吹 パーカッション:川上愛 ピアノ:尾崎有飛、甲斐史郎 ヴァイオリン:白井朝香、木村紗綾 ヴィオラ:吉海めぐみ チェロ:吉田正子 コントラバス:吉田有音 サン=サーンス/動物の謝肉祭
⑤	16:10 16:40	JR広島駅新幹線口 (構内)	指揮:大植英次 演奏:藤原心、中原泰尚、小山祐貴、福田明惟、鈴木良太郎、加登岡創太、檜垣文、 福尾望佳、福本滂花、芳之内実来、植竹ののか、玉里優貴、加藤寛、塚田智久、 堀川明由美、樺鈴華、川澄将人、若林裕菜、小畑清佳、向井沙世、高山桃奈、安部柚希 コーブランド/市民の為のファンファーレ 高橋宏樹/文明開化の鐘

2018/11/25 (日)

①	9:30 10:20	広島市役所 1階市民ロビー	伴奏:大植英次 演奏:(オーディション合格者)内田月渚、杉村健太郎、岩崎透子、大迫日奈、 船川慎平、岩本涼、坂直 マスネ/タイスの瞑想曲 ショパン/華麗なる大門舞曲 平田聖子/カキクケコ ヴィエニャフスキ/華麗なるボロネーズ第1番二長調 メサジェ/ソロド コンクール パッハ/グノー/アヴェ マリア サン=サーンス/ワルツ・カプリース
②	10:40 11:30	地下街シャレオ 中央広場	指揮:大植英次 広島心音弦楽アンサンブル:杉村健太郎、甲斐裕子、森岡施安、脇中日向子、 小椋小野花、張越、脇中弓子、小林加歩、守谷みさき シュトラウスII世/ピッチカートホルカ モーツァルト/アイネクライネナハトムジーク 広島交響楽団:1stヴァイオリン:緒方愛子 2ndヴァイオリン:宮崎 美里 ヴィオラ:青野 亜紀乃 チェロ:岩橋 綾 クライスラー/愛のよるこび ブラームス/ハンガリー舞曲第5番 モンティ/チャルダッシュ ドヴォルザーク/ユーモレスク、弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」より第1楽章
③	11:50 12:40	中国電力株式会社 本社 1階ロビー	指揮・チェンバロ:大植英次 威風堂々四季アンサンブル:佐久間聡一、井前慶子、白井朝香、木村紗綾、 高和雅、吾藤早桜、竹西朋子、中村夏実、 十河佑響、西澤理紗子、吉海めぐみ、長谷川緑、 佐藤吉恵、吉田正子、寺田萌、宮田雄規 ヴィヴァルディ/四季
④	13:30 14:30	旧日本銀行広島支店	語り:大植英次 Bass Bar(コントラバスカルテット):三井脩平、吉田有音、長谷川光、宮田雄規 ヴァイオリン:木村紗綾、中村夏実 オリジナル/Bass Bar オリジナル/At Dusk ドヴォルザーク/交響曲第9番~新世界より ヴィエニャフスキ/2つのヴァイオリンのためのエチュードカプリスOp18-4 ヘンデル/ハルヴェルセン/パッサカリア エルンスト/夏の名残の薔薇による変奏曲
⑤	16:30 17:20	リーガロイヤルホテル広島 1階チャペル・リュヴェール	ヴァイオリン:佐久間聡一 ピアノ:保屋野美和 バラデス/シリエンヌ ヴィニャフスキ/スケルツォワルツ マスネ/タイスの瞑想曲 ブラームス/ハンガリー舞曲第17番 サラサーテ/ツイゴイネルワイゼン ドビュシー/月の光(ピアノソロ)
⑥	18:00 20:30	広島国際会議場 フェニックスホール (※入場料…全席自由 1,000円)	指揮:大植英次 演奏:広島心音オーケストラ* バーンスタイン/キャンディード序曲、キャンディード組曲、ウエストサイドストーリー シンフォニックダンス ブラームス/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲第2楽章 山本秀/ひろしま平和の歌 ホルスト/木星 ストラヴィンスキー/火の鳥

(開演の30分前に開場する予定です。また、出演者・演目・時間等は変更になる場合がございます。)

- ※ 入場券取扱所:エディオン広島本店、福屋広島駅前店、アルパーク天満屋、JMSアステールプラザ、各区民文化センター、電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:127-749)
- * 「心音(しんおん)」とは、大植英次さんが「音を耳で聞くのではなく心で感じるものだ」と考え、長年、モットーとしてこられた大切な言葉です。公募による若手演奏家と編成されたオーケストラとアンサンブルは、ここから命名しました。